

## 令和2年度予算編成方針

### 1 日本経済の状況及び国の動向

内閣府が発表した令和元年8月の月例経済報告によれば、我が国経済の基調判断は、「景気は、輸出を中心に弱さが続いているものの、緩やかに回復している。先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題を巡る緊張の増大が世界経済に与える影響に注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」とされている。

また、令和元年6月21日に閣議決定された『経済財政運営と改革の基本方針2019』では、「政府は、成長を持続し、経済再生と財政健全化の好循環を実現していくため、適切な物的・人的投資の一層の喚起等によって、潜在成長率を引き上げ、成長力の強化を進め、賃上げなど所得向上に向けた取組や地方での好循環の前向きな流れを確実にする取組等を通じて、成長と分配の好循環の拡大を目指す。」とされている。

地方行財政については、2020年度において、新経済・財政再生計画に定める目安に従って、国の取組と基調を合わせて歳出改革等の加速・拡大に取り組む中で、臨時財政対策債等の発行額の圧縮、さらには、臨時財政対策債などの債務の償還に取り組む、地方交付税制度をはじめとする地方行財政改革を進めるとされている。

よって、令和2年度においては、これらの国の動向に注視しつつ、財源の確保と歳出の抑制をより意識しながら、町の予算編成を進める必要がある。

### 2 本町の財政状況と今後の見通し

平成30年度の一般会計決算については、「実質収支額」は、4億6,760万1千円の黒字となったものの、前年度と比べると、7,149万6千円の増となった。また、「経常収支比率」は、80.2%となり、前年度から0.5ポイント上昇したが、今後も、財政の硬直化が進まないよう、より一層の経常的経費の抑制に取り組む必要がある。

一方で、「実質公債費比率」は2.3%となり、前年度から0.5ポイント改善したものの、「将来負担比率」は平成30年度の大規模事業実施に伴い町債の発行及び基金の取り崩しを行ったことにより58.2%となり、前年度から33.5ポイントの上昇となったが、数値上、現在の町財政は健全性を保っているものと判断することができる。

現在、少子高齢化の進行や人口減少、産業の担い手不足などにより、歳入を支える環境は厳しくなる一方で、社会保障費などの行政経費は増加し、今後の公共施設老朽化への対策や行政サービスに対する需要の増加や多様化により、財政運営は厳しさを増していくことが予想される。そのため、『第6次総合計画』におけるテーマ別戦略の内、「財政運営」の項目では、すべての事務事業において財政健全化の観点から不断の見直しを行い、効率的かつ計画的に財政運営を進めることが主要課題とされている。

このようなことから、厳しい財政状況を認識し、中長期的な視点に立った事業の取り組みを計画的に進める必要がある。

### 3 予算編成にあたっての考え方

予算編成にあたっては、安心して安全な住民生活の維持と向上に資するサービスを提供し続けるといった基礎自治体の使命を十分認識するとともに、第6次総合計画に掲げる「人口減少抑制戦略」と「人口減少適応戦略」の実効性を確保し、以下に基づき予算編成を行うこと。

#### (1) 総合計画などの推進

『第6次総合計画』など、各種計画に基づく事務事業及び各年度の主要事業に重点を置き、「協働の実践」と「人口減少の抑制と適応」を強く意識した予算編成を行うこと。

#### (2) 事務事業の再構築

事業目的が達成されたものや事業効果が低いと判断される既存事業は、積極的に廃止又は縮小を行い、事務事業の再構築（スクラップ&ビルド）、特にスクラップに重点を置き、予算編成を行うこと。

#### (3) 自主財源の確保に向けた取り組み

自主財源の確保を図るため、各種使用料及び手数料の見直しに着手すること。

#### (4) 公共工事の平準化

工事量の偏りを解消し、年間を通した工事量が安定するよう債務負担行為を積極的に活用すること。

#### (5) 新たな事業への取り組み

18歳までの医療費無償化、中学校給食費無償化を実施するための予算を編成すること。

「令和」という新たな時代を迎え、『町民目線』、『3 現主義（「現場」に出向いて、「現物」に直接触れ、「現実」をとらえること）』に基づいた持続可能な行財政運営を積極的に推進する必要がある。

第6次総合計画の将来像である「ひととまちが輝く 地域共創都市」の創造は、決して平坦な道のりではないが、これまでの本町の行財政運営の知識と、培ってきた強い自信を糧に、職員が一丸となって英知を結集し、新年度の予算編成にあたること。

町民の皆様が、幸せを実感できる予算になることを確信している。

令和元年9月18日

垂井町長 早野博文